

欠くべからざること—生きる価値の創造

1970年1月5日 初版発行

定価 390円

著者 佐古純一郎

発行者 大和岩雄

発行所 大和書房

東京都文京区関口1〜33

振替東京64227

郵便番号112

電話(203)4511〜4

製版・印刷・凸版印刷 製本・美成社

落丁本、乱丁本はお取替えします

〈検印略〉 ©1970

大和書房

佐古純一郎

欠くべからざること

生きる価値の創造

主体的な生き方をつらぬく勇氣と指針

——この書を読む人に——

人間らしく生きたい、ということが人たれしもの素朴な願いでありましょう。しかも今日の時代は、ますます人が人間らしく生きられなくなっていくようにも思われます。いったいどこにほんどうの問題がひそんでいるのでしょうか。

この小さい書物で、私が考えてみたかったのは、人間らしく生きるということの、主体的条件は何かということでありました。もちろん、私は、人が人間らしく生きるための、客体的条件、つまり社会的な側面をけっして無視するものではありません。しかし、この書物では、そういう社会的条件をつくり出していく私たち人間の主体的な側面について私なりに考えてみようと思いました。

何よりもまず、私自身が人間らしく生きたいと願っているのです。ですから、問題を他人のこととして傍観的に考えるということはどうていゆるされることではありません。それゆえに、時には、あまりにも主観的な独断に走りすぎている部分もあるうかと思いますが、そういう点は、読者の皆さんが、めいめい主体的に読みとって下さって、十分に批判してお受けとり願いたく存

じます。

私がいつも忘れないように心がけていることは、読者とともに考えたいということでもあります。読者のひとりひとりと、心の対話をつくり出したということが、私の願いなのであります。この小さい書物がなかだちとなって、また新しい心の友が与えられますなら、ほんとうに幸福であります。

時代や社会の現実が、どのようにきびしく、いかに苦しくとも、私たちは人間への信頼を放棄すべきではありません。心のなかに、信じようとする意志を放棄しないこと、そこから、生きる力が湧いてくるのです。最後まで見棄てないことが、愛するということのほんとうの意味なのではないでしょうか。そんなことを皆さんといっしょに考えてみたくて、私はこの書物をつくりました。

一九六九年一月

佐古純一郎

欠くべからざること／目次

第I章／考える人間と考える精神

——存在の意味と至上の価値——

“虚無”という危機への指針

16

——人間ほんとうの在り方——

“明日が信じられない！”——青春固有の焦りなのか？
生命いのちのよろこびに満たされぬ悲劇
何になら“使命感”が持てるのか？

“虚無”という危機——この人間耐えきれぬもの
失なわれた“人間としての存在”——どう克服するか？

襲いくる不安からの脱却

26

——人間の“交わり”に生きる確かめ——

人間存在をおびやかすもの

“ひとりぼっち”であることの不安

『どもに生きる』道—問うべき人間の条件とは？

人間を価値づけるものは何か？

32

—『人間形成』のための一つの自覚—

かけがえないもの—『人であること』の意味

『物』と『者』との違い—どこまで認識しているか？

人間を価値づけるもの

『人であること』と『人になること』

機械の部分品でしかないのか？—非人間化ということ

『奴隷』を拒否する生き方

生の創造に不可欠の認識

44

—新しい人間像の探求—

人間とは一体何なのか？

不信にみちた存在—『人間性』の喪失状況

孤立化の中で回復すべきもの

新しい『人間像』をどこに求めるべきか？

生きる意味の創造—欠くべからざる考え方

主体的存在としての生き方

55

—『選ぶ』という至上の自由—

つらぬくべき「主体的自己」

「人格」としての目覚め—そこから何が生まれるか？

愛の絶対性と相対性

人間連帯を支える「選びの自由」

「相対性に徹する」—自己の在り方を決定するもの

第Ⅱ章／「ひとりの存在」からの出発

—さ迷う魂への支柱—

孤独を克服する生き方

66

—生きる喜びを創り出すもの—

人生はほんとうに無意味なのか？

不安な存在を勇気づけるもの

虚無をはね返す喜びとは？

生きる勇気の希求 71

—「弱い存在」として何を育くむべきか？—

自分というものがわからない…!?!—「弱い存在」としての自覚

生きる哀しさと悲慘と—死と対峙する人間

現代人のみがはらむ危機なのか？

孤独に耐える勇氣―何が支えとなるか？

生の発見をめぐして―苦しみ悩む魂への指針

分かちあう感動

82

―ひとりからの出発―

心のかよわぬ不幸―孤独と孤立との決定的差違
分かちあうことの喜びを！

”ともに”生きることへの意志

85

―人間の孤立をどう克服するか―

生を意味づける不可欠の条件とは？

個人の意志だけですべてが解決するのか？

連なりあうための基盤―どんな精神を培かうべきか？

人間の宿命としての”エゴイズム”

自分本位の生き方―その限界を破るには？

何が人間連帯の原動力となるのか？

哀しみに耐えぬく知性

97

―信ずる拠りどころを何に求めるか―

自己疎外を生み出すもの―人間探究への一つの懷疑

自我追求の欠落点とは？

『孤独地獄』にあえぐ人間精神

『自分が絶対である』という真理の矛盾

エゴイズムとは罪の苦しみなのか？

虚無・不信を断つ唯一の道——光明はどこにあるか？

第三章／愛の創造と調和

——欲望を超えるよろこびの倫理——

あの人があつたらしいなかつたら……

110

——愛されない悩みと愛しえない苦しみ——

愛はどこまで信じられるのか？

『ひとりぼっち』の存在が希求するもの

憎しみとは愛の裏返し……『好き』という感情の深部

男と女を結びつける真の力とは？

愛の可能性——その根源を見きわめるために

男が女を、女が男を……

119

——新しいモラルの創造と調和——

許されない恋——『自由』を否定するもの

性のたわむれでいいのか？

恋愛と結婚―割りきることの危険

『好きという愛』をどう昇華すべきか？

人間の本能か？ 生殖の手段か？―歪んだ『性』への眼

『純潔』とは魂の触れあいの結晶

よろこびの創造―愛を高める考え方

二人で築き上げるもの

愛の破局と方向

132

―三角関係の危険な心理―

『衝動の愛』が招く悲劇

男と女の断ちがたい絆

肉体と精神の葛藤の中から

にないあう運命―破局を避ける英知

いたわることでの結晶とは？

140

―許しあう条件―

なぜ愛が結実しなかったのか？

人間の『弱さ』が生む愛の破綻

立ちほだかる壁―この危機のとき

信じ、いたわる愛の勇氣

待ちつづける愛 149

——結びあう絆の不可思議——

男をささえる心づかいとは？

相寄る魂——男女の「縁」の神秘

愛する表現の行為 154

——「一つになる」ことの意義——

ゆたかさ^{ゆたかさ}と美しさ^{美しさ}と……性の共同体^{性の共同体}について

「一つになる」ことの感動

どこまで許されるものか？——創造の秩序^{創造の秩序}ということ

二つの愛の交わりの中に見出したもの

主体的な結びつき——成り立たせるための条件

求めるべき性の「倫理」^{倫理}

性の不信と性の美 164

——与えあう悦びへの努力——

生命の根源^{いのち}での結晶——純潔^{純潔}への志向

「売らない」性——目覚めるための知性

閉ざされた美徳が歪めるのか？

現代人が見失なったもの

「裸を恥じない」思想—よろこびの源泉
与えあう愛—何を育くむべきか？

第Ⅳ章／生きがいの発掘

— 欠くべからざる人間の条件とは —

惜しみなき「生命」への愛

180

— 個人の存在を超えるもの —

個人の尊厳と社会の繁栄—どちらを第一義とするか？

「生命」を軽視する悲惨

所有の生か、所与の生なのか？—享乐的生き方の「落とし穴」

「自己の存在」を超える「創造」

「人間みな兄弟」—人間の出發すべき原点とは？

人間と人間を真に結びつけるもの

191

— 「対話」による創造とは？ —

これでいいのか!? 「問答無用」という破壊

今、認識しなければならぬこと

なぜ「対話」が成り立たないのか？

「人間形成」に不可欠の態度

「向かい合う」場をどこに求めるのか？
積み重ねるべき一つの行動

つくり出すことのよろこび

202

—— 苦しみの中に何を見出すか ——

真の「幸福」とは何なのか？

苦しみをね返す支え——よろこびの発掘

働くことで結実するもの

207

—— 今、選ぶべき大切な考え方 ——

食うために働くのか？——「労働」を考える

「働く意志」が実現されるとき——一つの理想

「人間疎外」の克服——どこまで可能なのか？

人間連帯の方向——生きる意味の発見

今、何をなすべきなのか？

215

—— 幸福を築き上げる主体的条件 ——

「青い鳥」はどこにいる！？——「幸福論」への疑問

他者の生への責任——その自覚をどう持つか？

今、求められる「変革」への勇氣

「幸福」「希求の主体としての義務

カバー写真 梶原謹輔
本文カット 大森 廣

第I章／考える人間と考える精神

——存在の意味と至上の価値

